

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4570201048 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 報謝会 | | |
| 事業所名 | グループホーム ミューズの空 庄内 | ユニット名 | 3号館 |
| 所在地 | 都城市庄内町8122番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成29年6月27日 | 評価結果市町村受理日 | 平成29年8月30日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigovsyoCd=4570201048-00&PrefCd=45&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階 | | |
| 訪問調査日 | 平成29年7月19日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りは田畑に囲まれ、敷地内も広く施設内を散歩出来、のんびりと生活して頂ける環境である。建物は古いですが、施設内は清掃が行き届き居室は畳敷きである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市内より離れた環境にあり、周辺には田畑や緑の多い閑静な環境にある。敷地も非常に広く、畑作業を利用者のレベルに応じて行っている。施設内の環境美化を徹底して行い、利用者が過ごしやすい居住を心掛けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 3号館 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念に基づき職員の意識の徹底、日々のケアに反映されるよう努めている。朝礼時の復唱、名札の裏や玄関に掲示している。 | 法人の理念を基本にグループホームの理念を3ユニット共通で作成しており、職員で毎日唱和することで理念の共有と日常のケアの実践に努めている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域清掃を行っている。散歩時に挨拶を交わす程度であり、地域イベントには殆ど参加出来ていない状況である。 | 職員を中心に地区の清掃活動に参加している。また、事業所で開催する夏祭りに近隣より参加がある。その他小・中学生の職場実習などの受入れを行っている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 見学や相談に来られた方には入居以外の事でも気軽に相談してもらえるような対応を心がけている。 | | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議を開催し、利用者の状況やサービス提供の情報を報告している。 | 運営推進会議には市役所や警察署などからも出席があり、感染症や防犯の情報を共有するほか、事業所の現状報告などを行い、ケアの実践に会議での意見を反映させている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議には市職員も来られ、サービス内容についての助言や各種情報を得て意見交換を行っている。 | 介護保険をはじめ、市役所の各課と連携を図り、利用者の受入れの情報交換やケアの質の向上を図っている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束についての施設内研修を行い全職員が周知するよう取り組んでいる。センサーを設置する等、事故防止を図っている。 | 身体拘束委員会を立ち上げ、職員の知識や技術の向上を図るほか、法人内での研修や事業所外の研修に積極的に参加し、身体拘束の防止に努めている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員会議の中で話し合い、一人一人が細心の注意を図っている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 3号館 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 職員会議や棟会議にて権利擁護に関し学ぶ機会を持ち、活用出来るようにしている。 | | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時に契約書、重要事項説明書の説明を行い疑問や意向を聞きながら、十分理解と納得をして頂いている。 | | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見や要望を気軽に相談して頂けるよう、玄関に要望箱を設置している。また、利用者の状況等を家族便りにて郵送している。 | 来訪時に家族との対話を積極的に図ることにより、意見の収集に努めている。また、遠方の家族には手紙やメールなどで意見のやり取りを行い、ケアの実践に反映させている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日々の申し送りや月に1度の棟会議・職員会議で職員の意見交換ができる機会を設けている。 | 職員会議や各ユニットでの個人面談を定期的に行い、職員からの意見を集約することで、設備改善や利用者のケアに反映できるよう努めている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 責任者は職員とのコミュニケーションを図り、管理者は職員の思いを伝えるように努めている。 | | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内にての研修を受ける機会があり、知識や技能を増す環境がある。 | | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡協議会に加入し、研修会にも参加している。地域包括支援センターや他事業所との交流を図っている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 3号館 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用者の生活歴を把握し、利用者本位のケアを心がけている。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所前の家族との面談時に家族からの要望等を聞き、入居後も日常の様子を報告し、信頼関係を持てるよう努めている。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人様と家族の意向を把握し、安心してサービスを受けることが出来るよう努めている。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 掃除や洗濯物たたみ等の軽作業を一緒に行っている。 | | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族便りで利用者の生活の様子をお知らせし、家族との一体感が失われないように努めている。 | | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族の協力で知人宅に行かれたりと馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。 | 家族の協力のもと、外出を行うほか職員も同行し、墓参りなどの外出を行っている。また、遠方の家族には電話や年賀状のやり取りなどを行っている。随時来訪者の受入れなども行っている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 職員は利用者同士の間関係を把握し一緒に行事等に参加している。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 3号館 | 外部評価 | |
|-----------------------------------|------|--|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院等による他施設への移設の場合、施設の紹介や相談にも応じている。また、家族の方に会った時には様子をお伺いしている。 | | | |
| Ⅲ. そのらしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者の生活歴を把握し日々の会話や表情から様子や変化に気づき一人一人に合わせたケアを行っている。 | 入居前には自宅での生活の様子を把握するために、自宅での面談の徹底を行っている。入居後も本人や家族とのやり取りで生活歴などの情報収集を行っている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人、ご家族から生活歴やサービス利用歴等を聞き職員が把握するよう努めている。 | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人一人の生活リズム・心理状態を把握し情報を共有している。 | | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人、家族からの要望を聞き職員間で意見交換をし作成、見直しを行っている。 | 各ユニットで職員会議を開き、全職員が利用者個人のケアへの意見交換を行い、介護支援専門員や計画作成担当者を中心にその意見を集約し、介護計画作成に努めている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子や気づきは個別に記録し支援経過記録や担当者会議を行い計画の見直しに活かしている。 | | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 多機能化に取り組んでいる訳ではないが、ニーズに合わせて柔軟に対応している。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 3号館 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域のボランティアの美容師さんに安価で訪問理容をお願いしている。 | | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医に受診される方、往診の方がいる、往診医との連携により速やかな対応。希望される方はかかりつけ医への継続しての受信と対応されている。 | 協力医院の往診を中心に、各々の希望に沿った医療機関を受診できるように家族の協力を得ながら受診を支援している。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護職と看護職は、医療申し送りノートにより、情報を共有し、介護職が気付いた点は看護師に相談し、看護師より協力医Drに上申している。 | | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院された際は、随時病院へ状況確認へ行き、病院側と情報交換を行っています。 | | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時に、重度化及び看取りに関する指針入居契約時に説明し同意を頂いております。 | 入居前には終末期などについて、家族に説明や確認を行っている。入居後も利用者の現状に合わせて主治医との連携や家族への意向確認を随時行い、安心して終末期を過ごせるように支援している。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的な訓練は行っておらず、急変時は看護師との連絡指示で対応している。 | | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の防災訓練(避難・誘導・通報・消火)を行い。地域への協力は運営推進会議時をお願いしている。 | 火災の避難訓練は定期的に行われているが、夜間想定や地震に対する訓練に至っていない。また近隣との協力体制がなかなか構築されない実情がある。 | 今後は夜間想定での火災や地震に対する避難訓練を近隣住民の協力を得ながら実施し、災害等に備える体制の構築を期待したい。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 3号館 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|-----|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者を尊重した言葉使いや対応を行っている。 | | 利用者への声かけは名字や生活歴でなじみのある呼称で行う。排せつや入浴に関しても同性介助での実施など個人の尊厳に配慮を行っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活の会話の中で、さりげなく伺い実現を図っている。 | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個々のペースに合わせ、その日の体調や気持ちに配慮しながら支援している。 | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 2ヶ月に1回訪問にて散髪や、要望時には髪染めを行っている。 | | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 準備や片付けは一緒にできないが、会話をしながら食事が摂れる様にしている。 | | 法人内に配食センターがあり、食事は配食され、真空パック・冷凍での備蓄も備えている。職員が食事介助などを行いながら一緒に食事をとり、明るい雰囲気での時間を設けている。個々の力量に応じて、盛り付けや配膳・下膳を共に行っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分量・食事量は一日を通して記録を行い、キザミやトロミ、食器類にも気を配り盛り付けも工夫している。 | | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食前には口腔体操を行い食後は必ず口腔ケアを行い、夜間帯は義歯は義歯洗浄剤にて洗浄を行っている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 3号館 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者の様子を見て排泄サインに気づくよう取り組んでいる。 | 可能なかぎり、離床して排せつができるように支援をし、利用者の多くがトイレやポータブルトイレでの排せつができるように支援をしている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便状況を把握し食事や水分量・ヨーグルト等を摂取して頂き自然排便を促している。 | | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴は週3回入って頂いている。入浴拒否時には無理強いせず、リラックスして入浴して頂いている。 | 利用者は週3回の入浴を基本とし、その他希望時には、利用者の意向に沿って入浴ができる体制を整えている。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 消灯時間は設けず、それぞれの就寝時間や、その日の体調等に合わせて休んでもらっている。 | | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 全職員が利用者の服薬している薬を把握し、薬の効果が得られているか日々観察を行っている。 | | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 職員と一緒に花壇の手入れや畑を耕して頂いている。また、外出や行事等参加することで気分転換になるよう支援している。 | | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 職員と買い物・散歩・日光浴等を行っている。ドライブも行っている。 | 各ユニットでの近隣への散歩などを中心とした外出支援を行っている。その他、家族の協力の下、外出が出来るように体制を整えている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 3号館 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金の所持を希望される方には、ご家族へ連絡しお渡ししている。買い物希望された場合には職員が付き添い楽しんで頂いている。 | | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 御希望があれば、いつでもご家族に電話出来るようにしている。 | | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節感のある掲示物・花・利用者の作品等を飾り、利用者の好きな音楽を流したり明るい環境に努めている。 | 非常に広く作られたホームであり、施設内の環境美化に熱心に取組むほか、ホーム内での装飾や敷地内の畑などを通じて四季が感じられるようになっている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用空間には、堀こたつやソファを置き、利用者仲に合わせて席を検討しコミュニケーションが図れる関係を作っている。 | | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族の写真を飾られたり、コタツや冷蔵庫を持ち込まれている方もおられる。 | 全室畳の居室であり、必要に応じてマットなどを使用し、車いすの対応を図っている。また、家族の写真や使い慣れた家財など、自宅での生活環境の再現にも配慮がされている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者の要望や職員同士で話し合い滑り止めや手摺りを設置している。 | | | |